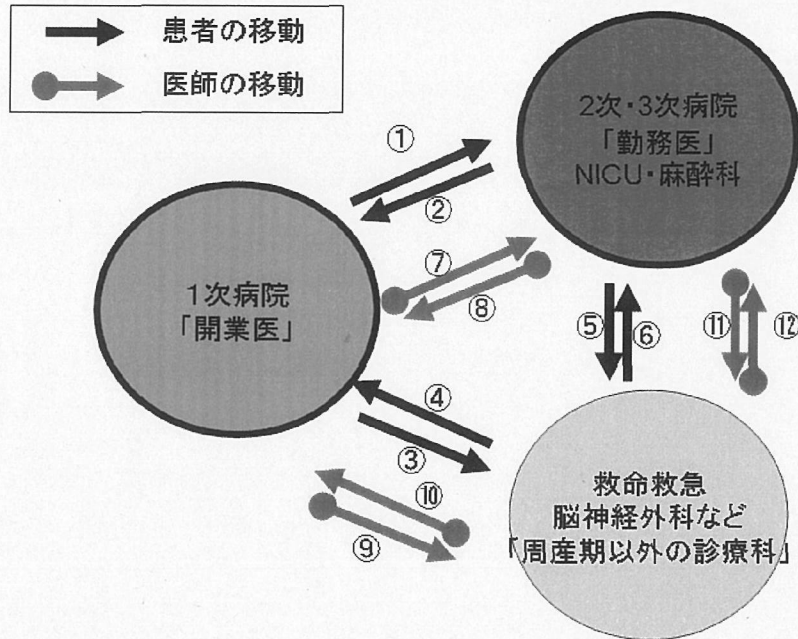


図2. 医師と患者の流れからみた周産期システムの再構築



⑦ 1次周産期施設から2次・3次への医師の移動

オープンシステム・セミオープンシステム

【頻度】1万出産に対して、その10%の約1,000例がオープンシステムを利用。全国的には、10万例/年。

<資料> 1) 宮崎県宮崎医療圏：5000 出産のうち、約 400~500 件がセミオープンシステムで分娩される。帝切分娩4日目に、経膈分娩翌日にバックトランスファー

<資料> 2) 宮崎県都城医療圏：2000 出産のうち、約 200 件がセミオープン施設を利用した。

⑧ 2次・3次周産期施設から1次への医師の移動

新生児搬送で、周産期施設から1次産科施設へは頻繁に行われているが、周産期施設から産科医が応援に行くことは、宮崎県など一部の地域でのみ行われているにすぎない。

公務員の兼業禁止規定などの「行政の壁」が医師の移動を妨げている。

【頻度】、周産期の地域化が進んでいるところほど、多いものと考えられる（調査が必要である）宮崎県では、1万出産に対して、その2~3%の200~300回、医師が年間1次産科施設で診療応援していると推定される。全国的には、20,000~30,000回/年・医師

<資料> 1) 宮崎県都城医療圏（約2000 出産）：一人の産科医が、年間約50回、他施設